

調査レポート

b j リーグによる地域活性化

【 要 旨 】

- ・ 県内における b j リーグは琉球ゴールデンキングスが、2007 - 2008 シーズンから参戦し、今シーズンとなる 2012 - 2013 シーズンは 6 シーズン目となる。
- ・ この間、琉球ゴールデンキングスは、2008 - 2009 シーズン、2011 - 2012 シーズンの 2 度、日本一になるなど輝かしい実績を上げている。
- ・ 観客数においても毎年、増加を続けており 2011 - 2012 シーズンは、これまでで最高となる約 8 万 9,100 人であった。
- ・ 観客数の増加に伴い 2011 - 2012 シーズンの経済効果も約 25 億円とこれまで試算したなかでは、最高額であった。
- ・ また、琉球ゴールデンキングスは、バスケットボール教室や地域行事への参加などを通じた地域貢献活動を行っている。
- ・ b j リーグの試合は沖縄観光がオフシーズンとなる冬場を中心に実施されており、入域観光客数の増加に貢献したことなどから琉球ゴールデンキングスは 2012 年度沖縄県観光功労賞を受賞した。
- ・ さらにこれまでの琉球ゴールデンキングスの快進撃は、県民に大きな夢と希望を与えており、地域活性化に大きな役割を果たしただけでなく、エンターテイメント産業としての新たな需要の創出にもつながった。
- ・ 今後、さらなる県内プロスポーツチームの育成や発展のためにも、より多くの県民の応援が必要になってくる。

1.はじめに

b j リーグ（日本プロバスケットボールリーグ）は国内において、2005年にスタートし今年で8年目となり、今シーズンとなる2012 - 2013シーズンは全21チームが参戦を予定している。

沖縄県内においては、琉球ゴールデンキングスが2007 - 2008シーズンから参戦し、今シーズンで6シーズン目となる。この間、琉球ゴールデンキングスは2度日本一に輝くなど、多くの県民に夢と希望を与えたほか、県内における経済効果やバスケットボールを通じた地域貢献活動など地域の活性化に大きく寄与しており、本稿ではこれらの効果についてまとめた。

2. 琉球ゴールデンキングスの歩み

(1) 成績

沖縄県内においては、琉球ゴールデンキングスが2007 - 08シーズンから参入し、今シーズンの2012 - 2013シーズンで6シーズン目となる。

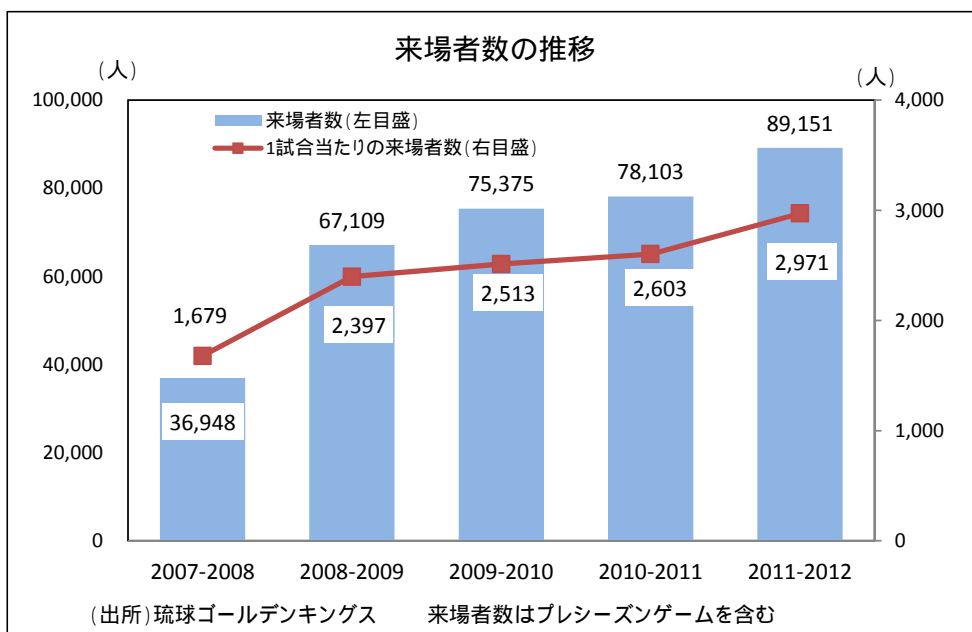
参入した初年度こそ、最下位と振るわなかったものの、参入2シーズン目となる2008 - 2009シーズンはウェスタンカンファレンスで1位となり、見事にプレーオフでも優勝し日本一となった。その後、2009 - 2010シーズンではファイナル4に進出し3位、2010 - 2011シーズンは、カンファレンス1位、ファイナル準優勝と好成績を収めた。

2011 - 12年シーズンは、ウェスタンカンファレンス1位となり、ファイナルにおいても優勝し2度目の日本一を果たした。このように2シーズン目以降、常に優勝争いに加わる活躍をみせている。

(2) 来場者数(観客数)の推移

ホームゲーム(県内)での来場者数については、参入1年目は、来場者数36,948人で1試合当たり1,679人であったものが、ファイナル優勝した2年目は67,109人で1試合当たり2,397人と大幅に増加した。

その後も、毎年優勝争いに加わるなどの快進撃による県内外への認知度のアップなどにより、来場者数は順調に増加を続け、2度目のファイナル優勝を果たした2011 - 2012シーズンは、89,151人で1試合当たり2,971人とこれまでを大幅に上回り過去最高となった。



3.2011 - 2012 シーズンの経済効果

(1) 直接支出額

経済効果の試算にあたって、まず、県内及び県外からの観客・選手による飲食や宿泊費、交通費、娯楽レジャー、グッズ購入、優勝記念セールなどの直接支出額（消費額）を推計する。その他の支出として会場設営のための費用や広告費など興行関連の支出やチーム運営のための支出があり、これらの支出額を合計すると18億1,600万円となる。

(2) 経済効果の試算

経済効果の試算にあたり(1)で得られた直接支出額を産業別需要項目に区分し、沖縄県産業連関表を用いて県内各産業への波及効果も含めた経済効果を算出する。

まず、県内の産業全体の自給率は100%ではないため、(1)で求めた直接支出額に県内の自給率を掛けて算出した額が14億6,800万円となり、これが直接効果となる。

次に直接効果である飲食費、宿泊費、交通費、会場設営費などが県内で支出されると、当該産業だけでなく、こうした産業に原材料、サービス等を提供している産業への売上増加へと波及していく。これを1次間接波及効果といい、これが6億4,700万円となる。

さらに直接効果、1次間接波及効果のように各産業へ波及した効果は雇用者の所得へと結びつき、これらの雇用者の所得が消費へと繋がり、消費を通して各産業の生産を増加させていく。これを2次間接波及効果といい、これが4億2,100万円となる。

これらの直接効果、1次間接波及効果、2次間接波及効果であるそれぞれの生産誘発額を合計したものが、25億3,500万円となり、これが沖縄県内におけるbjリーグの2011 - 2012年シーズンの経済効果となる。また、これらの効果のうち、原材料やサービス等の仕入れを除いた分が粗付加価値(13億6,600万円)となり、この中で雇用者へ支払われた賃金等が雇用者所得(6億9,000万円)となる。

2011 - 2012年シーズンの経済効果25億3,500万円は、当社がこれまで試算したうち、初の日本一となった2008 - 2009年シーズンの経済効果16億2,500万円、参入初年度2007 - 2008年シーズンの経済効果7億4,400万円を大きく上回った。

増加要因として、同球団の県内外での認知度が高まり、観客数がこれまでで最高となったことなどが挙げられる。

bjリーグ2011-12年シーズン経済効果(沖縄県内)の試算結果

[単位:百万円]

	経済効果 (生産誘発額)	粗付加価値 誘発額	
		雇用者所得 誘発額	
直接効果	1,468	760	434
1次間接波及効果	647	347	150
2次間接波及効果	421	259	105
合計(総合効果)	2,535	1,366	690
直接支出額 (波及効果)	1,816 (1.4倍) = 総合効果/直接支出額		

- (注) 1. 直接効果は、直接の支出による効果のことで、直接支出額に沖縄県内での自給率を掛けて求める。
 2. 1次間接波及効果は、原材料を他の産業から購入することによって起こる波及効果。
 3. 2次間接波及効果は、直接効果、1次間接波及効果によって生み出された雇用者所得の増加が個人消費の拡大を通して再び生産を誘発する効果。
 4. 生産誘発額は、直接支出の増加により誘発された各部門の生産額の合計。
 5. 付加価値は、誘発された生産額の中に占める粗付加価値(雇用者所得と営業余剰)。
 6. 端数処理により合計は合わなくなることがある。

(3) 産業別の経済効果

本件の経済効果である生産誘発額 25 億 3,500 万円を産業別にみると、製造業(土産品や食料品を中心とした製造業)の 4 億 9,700 万円が最も大きく、次いで商業の 4 億 5,400 万円(お土産品やグッズ購入、優勝セール等)、飲食店の 2 億 4,300 万円、宿泊業の 1 億 7,400 万円などとなっている。

bjリーグ2011-12年シーズン(沖縄県内)の産業別経済効果

[単位:百万円]

産業区分	経済効果 (生産誘発額)	粗付加価値 誘発額	
		雇用者所得 誘発額	
製 造 業	497	152	71
商 業	454	302	186
飲 食 店	243	108	67
宿 泊 業	174	83	44
対 事 業 所 サ ー ビ ス	160	99	58
運 輸	151	104	81
不 動 産	147	124	6
金 融 ・ 保 険	121	75	32
そ の 他 の 産 業	588	319	145
合 計	2,535	1,366	690

4. 琉球ゴールデンキングスの地域貢献活動

(1) 選手・スタッフによる地域貢献活動

琉球ゴールデンキングスは、「沖縄をもっと元気に！」という理念のもとに活動をしており、選手・スタッフによるバスケットボールを通したいろいろな地域貢献活動を行っている。

主な活動としては、小学生へのバスケットボール教室開催や小中高生等への講話、メディアへの出演、地域行事への参加、献血活動などが挙げられる。

まず、バスケットボールクリニックと称したバスケットボール教室は、選手・スタッフが部活動を行っている体育館に直接、出向くなどして指導（クリニック）を行っており、選手とも直に触れ合えることから好評を博している。もともと、沖縄県はバスケットボールの人気の高い地域であり、小中高におけるバスケットボール部に所属している児童生徒数も多いことから、バスケットを通した青少年への健全教育にも大いに役立っている。特に同球団では、活動理念の中に「子どもの夢を育み活力ある社会の形成」を掲げており、小中高校での講話活動を含め、頻繁に学校を訪問するなど、青少年の健全化に積極的に取り組んでいる。

また、地元メディアへの出演や地域行事、献血活動へ参加などを通して、地域密着を図っており、これらの取り組みは地域活性化へとつながっている。

琉球ゴールデンキングスによる地域貢献活動(2011-2012シーズン)

活動種別	回数
講話活動	7
地元企業イベント	10
社会貢献活動(地域行事、献血等)	7
バスケットボールクリニック	30
バスケットボールイベント	15
メディア出演	27
合計	96

(出所)琉球ゴールデンキングス

(2) スポーツツーリズムによる貢献

沖縄県では、スポーツツーリズムを推進しており、特に沖縄観光がオフシーズンとなる冬場には、入域観光客が少なくなることから、スポーツイベント等を通し、沖縄観光の魅力向上に努めている。

温暖な気候を利用したオフシーズンに開催されるスポーツイベントは、プロ野球春季キ

キャンプやNAHAマラソンなどがあり、多くの入域観光客の誘客実績につながっている。bjリーグも主に観光のオフシーズンである冬場において開催されており、2011 - 2012シーズンにおいては、約9,000人の県外からの観客があり、入域観光客数の増加に貢献した。

また、琉球ゴールデンキングスをはじめbjリーグの試合においては、ショー的な演出を盛り込み、スポーツエンターテイメントという新たな娯楽産業を創出している。

このような実績や取り組みが認められ、琉球ゴールデンキングスは、本県のスポーツツーリズム振興に貢献したとして、2012年度沖縄県観光功労賞を受賞した。

5.おわりに

これまでみてきたように2011 - 2012シーズンの観客数約8万9,100人は過去最高となり、これに伴い経済効果25億3,500万円も、当社が試算した中でも最高額となった。毎年、好成績を収めていることや地域貢献活動を通じた地域密着型の取り組みが県民への認知度を高め、多くの支持につながり、経済効果を押し上げた。



この間、琉球ゴールデンキングスは2度の日本一に輝き、県民に大きな夢と希望を与えており、このことはキングス誕生の大きな成果と言え、地域活性化にも大きな役割を果たしている。

このような県内におけるプロスポーツの活動はエンターテイメント産業としての新たな需要の創出になっており、県内プロスポーツの発展につながった。

今後の課題としては、県内では、毎年プロ野球キャンプが実施されるなど、スポーツ施設などの充実が進んでいるが、バスケットボールに関しての施設はまだ十分といえない。県内プロスポーツの育成やスポーツコンベンション振興のためにも5,000人以上収容可能なアリーナの建設もこの先必要になってこよう。また、今後、さらなる県内プロスポーツチームの発展のためにも引き続き多くの県民の応援が必要になってくる。

以上

琉球ゴールデンキングスの2012 - 2013シーズンのホームゲーム日程

前半戦	日程		開場	開始	対戦相手		会場			
GAME-1	10月	27(土)	17:30	19:00		滋賀レイクスターズ	沖縄市体育館			
GAME-2		28(日)	16:30	18:00						
GAME-3	11月	17(土)	17:30	19:00		大分ヒートデビルズ	沖縄市体育館			
GAME-4		18(日)	16:30	18:00						
GAME-5		24(土)	17:30	19:00					ライジング福岡	宜野湾市立体育館
GAME-6		25(日)	11:30	13:00						
GAME-7	12月	15(土)	17:30	19:00		島根スサノオマジック	宜野湾市立体育館			
GAME-8		16(日)	11:30	13:00						
GAME-9		22(土)	17:30	19:00					浜松・東三河フェニックス	沖縄市体育館
GAME-10		23(日)	16:30	18:00						
GAME-11	1月	2(水)	17:30	19:00		京都ハンナリーズ	那覇市民体育館			
GAME-12		3(木)	11:30	13:00						
GAME-13		12(土)	17:30	19:00					高松ファイブアローズ	宜野湾市立体育館
GAME-14		13(日)	11:30	13:00						
後半戦	日程		開場	開始	対戦相手		会場			
GAME-15	2月	2(土)	17:30	19:00		大阪エヴェッサ	沖縄市体育館			
GAME-16		3(日)	11:30	13:00						
GAME-17		9(土)	17:30	19:00					宮崎シャイニングサンズ	沖縄市体育館
GAME-18		10(日)	16:30	18:00						
GAME-19	3月	2(土)	17:30	19:00		横浜ビー・コルセアーズ	宜野湾市立体育館			
GAME-20		3(日)	11:30	13:00						
GAME-21		23(土)	17:30	19:00		埼玉ブロンコス	石垣市総合体育館			
GAME-22		24(日)	11:00	12:30						
GAME-23		30(土)	17:30	19:00		島根スサノオマジック	沖縄市体育館			
GAME-24		31(日)	16:30	18:00						
GAME-25	4月	13(土)	17:30	19:00		群馬グレインサンダース	沖縄市体育館			
GAME-26		14(日)	16:30	18:00						

【補注】本調査で使用した産業連関表について

本件調査では、沖縄県の2005年産業連関表を用いた。産業部門数で表示する部門表は産業分類35部門表をベースにしたが、35部門表では県外からの滞在者の主な支出項目である「宿泊業」や「飲食店」、「貸自動車業」等の部門が明示されていないので、これらの産業部門については、県が公表した基本分類表(404行×350列)から該当する業種を抽出した。さらに、今回の分析において多少統合しても不都合がない部門を当社で統合し、本件調査の分析用に組み替えた。

また、産業連関表における各産業部門の自給率は、県内需要(=県内居住者の需要)に対する自給率であるため、移輸出(=非居住者の需要)は対象外となる。このため、統計上、移輸出である「県外からの滞在者の支出(=非居住者の需要)」の経済効果を試算する際に、そのままの自給率を用いると不都合が生じる。例えば、宿泊業の自給率は、県内居住者の宿泊需要等のうち県内宿泊部門を利用した割合を意味するが、県内居住者の場合、県外宿泊の支出額が県内宿泊の支出額より大きい場合、県内宿泊業の自給率は低くなる。しかし、県外からの滞在者の支出項目である宿泊費や飲食費は全て県内で発生する。こうした支出に対して県内での自給率が明らかに100%とみられる宿泊業、飲食店などについては自給率を100%に設定し直して使用した。

生産誘発額を求める式は以下のとおりである。

$$X = [I - (I - M)A]^{-1} (I - M)F$$

X：各産業部門の財・サービスの生産額

I：単位行列

M：県内需要に対する移輸入係数(対角行列)

A：投入係数(行列)

[]⁻¹：逆行列

F：最終需要額(直接支出額)

X(生産額)が、F(最終需要額)に対応する生産誘発額となる